

1月29日（木）5年6年 能の体験 すり足体験と鑑賞

1月29日（木）、5・6年生を対象に「能楽体験・鑑賞教室」を開催しました。

私たちの住む奈良、そして當麻の地とも縁の深いこの伝統芸能について、本物の迫力を間近に感じながら学びました。

児童たちは、動きの基本である「摺り足」に挑戦しました。重心を低く保ち、滑らかに歩く難しさを体感しました。また、能面（おもて）についても深く学びました。実際に面をつけた児童からは、「視野がとても狭くて、この状態で舞うのは怖い！」と驚きの声が上がり、限られた視界で遠近感を掴む能楽師の方々の高度な技術を実感しました。

この日の特別なプログラムとして、本校の卒業生である能楽師の中井様に、おめでたい曲の代名詞である『高砂』を舞っていただきました。正絹の豪華な装束を、実際に目の前で着付ける様子も見学し、赤色のめでたい装束を纏った先輩の凛々しい姿に、会場は静かな感動に包まれました。

最後には質問タイムが設けられ、日常で使う「千秋楽」という言葉のルーツが能楽にあることや、舞台に立つための厳しい心構えなど、教科書だけでは学べない貴重なお話を伺うことができました。

地域の誇りである「當麻曼荼羅」の物語が能の演目として大切にされているように、今回の体験が、子どもたちにとって郷土の歴史と日本の伝統文化を誇りに思う大切な時間になりました。ご指導いただいた先生方、本当にありがとうございました。

